

MEセンター

MEセンターは、臨床工学技士2名と委託ME専任スタッフ3名の計5名で構成され、臨床業務とME機器保守管理業務を担っている。臨床業務は、人工心肺操作や脳外科のナビゲーションシステム操作、病棟の人工呼吸器回路交換などに就いている。ME機器保守管理業務においては、高度専門医療センターのサポート的役割を担う面から、病棟で使用する人工呼吸器・輸液ポンプやシリンジポンプ・パルスオキシメータなど30種約1000台を中央管理体制のもと、常に点検・整備された状態で整備し、事故防止・安全対策に力を入れて対応している。

(1) MEセンター業務

MEセンターはSPDシステムとしても位置づけられ、24時間フルサポートではないが、SPDスタッフによって夜間・休日のME機器貸出し業務も行っている。

業務時間

月曜から金曜の午前8時30分から17時まで中央管理機器の搬送

(月曜～金曜日)	日勤帯体制	午前8時30分～午後5時	(MEスタッフ)
	夜勤帯体制	午後5時～午前8時30分	(SPDスタッフ)
(土曜・日曜・祝祭日)		終日	(SPDスタッフ)

業務内容

- (a) 貸出し業務 電話依頼
- (b) 回収業務 電話依頼及び午前・午後定時回収
- (c) 点検・整備 日常点検(始業・終業点検) 定期点検・故障点検
- (d) 院内修理 修理可能な簡単なもの
- (e) 院外修理 院内で不可能なもの

(2) ME機器の中央管理

病棟からの貸出し電話依頼を受けて、必要なME機器(各種モニター・輸液ポンプ・パルスオキシメータなど)を供給し、使用後のME機器の回収もまわっている。

従来病棟で管理されていたME機器をMEセンターで管理することで、全ての器械の所在と機器の履歴までも把握し、貸出しから回収・清拭・点検・整備・保管と中央管理を行い、安全で効率的な機器運用を目指す新しいシステムである。

管理内容

- (a) 機器の管理簿 機器名・購入年月日・貸出し・返納・修理履歴など1台ごと作成
- (b) ME機器の統一 使用目的ごと同機種に揃えて医療事故防止対策も担う
- (c) 点検マニュアル化 貸出し時の始業点検、返納時の終業点検のマニュアル化
- (d) 常に整備された機器 貸出し可・不可の明示、貸出し時の初期設定、各種テスターによる保守・点検

(3) ME機器に対するリスクマネジメント

MEセンターで管理している医療器械は、貸し出す際すべて始業点検を行い、初期設定の確認も行う。

使用後の医療機器は、点検項目に沿った終了点検を確実に実施する。

使用後の医療機器は、感染防止のため消毒液を使用し清拭する。

医療機器の保管は、機種ごとの棚に、点検中または貸し出し可の表示を明記し保管する。

異常の報告を受けた医療器械は、点検が完全に終了するまで貸し出しは行わない。

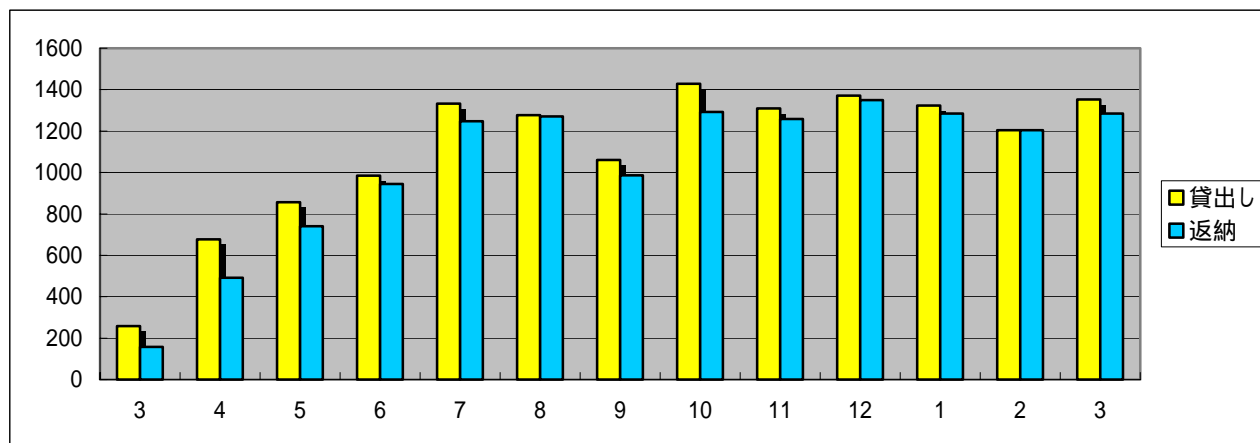
機器のトラブルに関する情報に注意を払い、機器の安全性に努める。

人工呼吸器使用患者の回路交換は、定期的に麻酔科医師と行う。麻酔科医師の指示で臨床工学技

士が回路交換を行った場合は、回路交換後麻酔科医師へ報告し、患者の全身状態の観察及び人工呼吸器作動状況の確認を依頼する。

人工呼吸中の患者の人工呼吸器は、呼吸器回路も含めた作動状況の観察を毎週行い、事故防止と異常の早期発見に努める。

(4) ME 機器貸出し状況 (平成 14 年 3 月～平成 15 年 3 月まで)



貸出し件数：月平均 1110 件 1 日平均 37 件 返納件数：月平均 1040 件 1 日平均 35 件

(5) ME 機器の故障・修理状況

院外へ故障修理依頼 43 件

院内修理件数 54 件 (マノメータ・患者ケーブル・吸引器など)

(6) ME センター内動向

月	内 容
3	臨床工学技士 1 名、委託 ME 専任スタッフ 2 名で業務開始 SPD に夜間用の ME 機器専用棚を導入
4	臨床工学技士 1 名、委託 ME 専任スタッフ 1 名採用し 5 名体制となる
5	輸液ポンプ・人工呼吸器など初期設定を導入
6	カウンターショック点検開始 (毎週)・病棟貸出し機器の所在確認開始 (月 2 回)
7	ME 機器バージョンアップ依頼開始 (パルスオキシメータなど)
8	貸出し状況把握のためホワイトボード設置・新規 ME 機器導入の手順作成
9	始業点検・終業点検のマニュアル作成・テレメータの電波障害への対応を開始
10	パルスオキシメータのベット用架台の導入開始
2003 年 2	NICU 用人工呼吸器のバージョンアップに対応
3	テレメータのバージョンアップに対応

(7) その他

管理機器以外でも医療機器に関する問い合わせや修理依頼も多く寄せられる中で、医療機器を通じたコミュニケーションにも努力している。

数々の新しい構想をもって生まれた成育医療センターの中において、最良の成育医療を提供出来るよう柔軟な支援サポート体制で、今後も臨む予定である。